

携帯電話分野に関する意見交換会

事務局参考資料

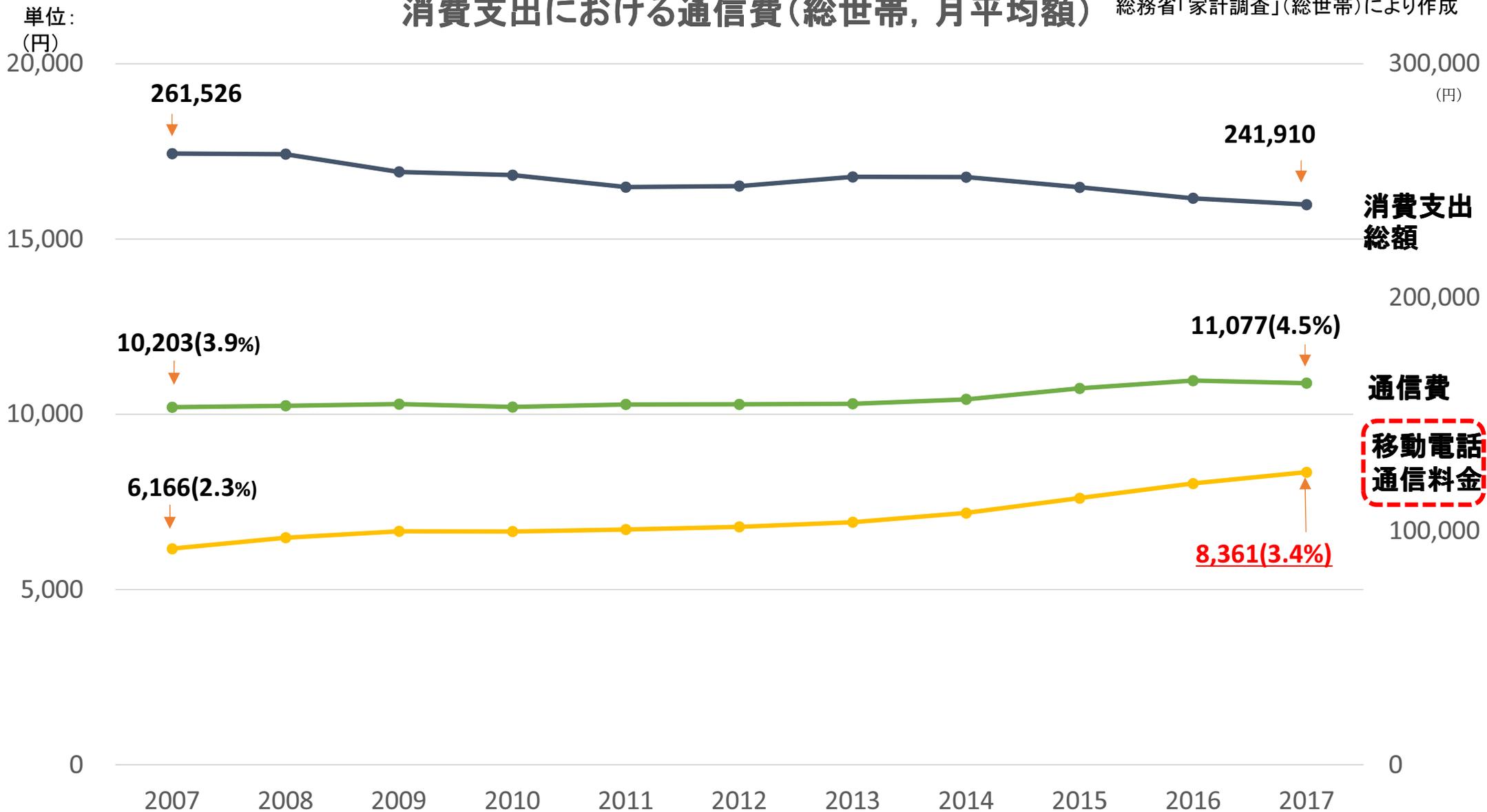
目次

1. 消費支出における通信費 … 1
2. MNO各社の料金プラン一覧 … 3
3. 通話量及び通信量から見たMNOによる提供プラン … 6
4. 現在MNO各社で提供されている端末購入補助をなくして通常のプランから値下げしたプラン … 7
5. 端末と通信をセットで購入する場合と分離して購入する場合の料金差 … 8
6. 端末と通信をセットで購入する場合と分離して購入場合に適用されるプログラムの比較 … 9
7. SIMロックの制度概要とこれまでの動き … 10
8. 期間拘束・自動更新の概要とこれまでの動き … 11
9. 契約解除料(違約金)にかかる判決の概要 … 14
10. HLR/HSSの開放について … 15
11. 割賦契約の総額の固定について … 16
12. 中古端末について … 17

消費支出における通信費

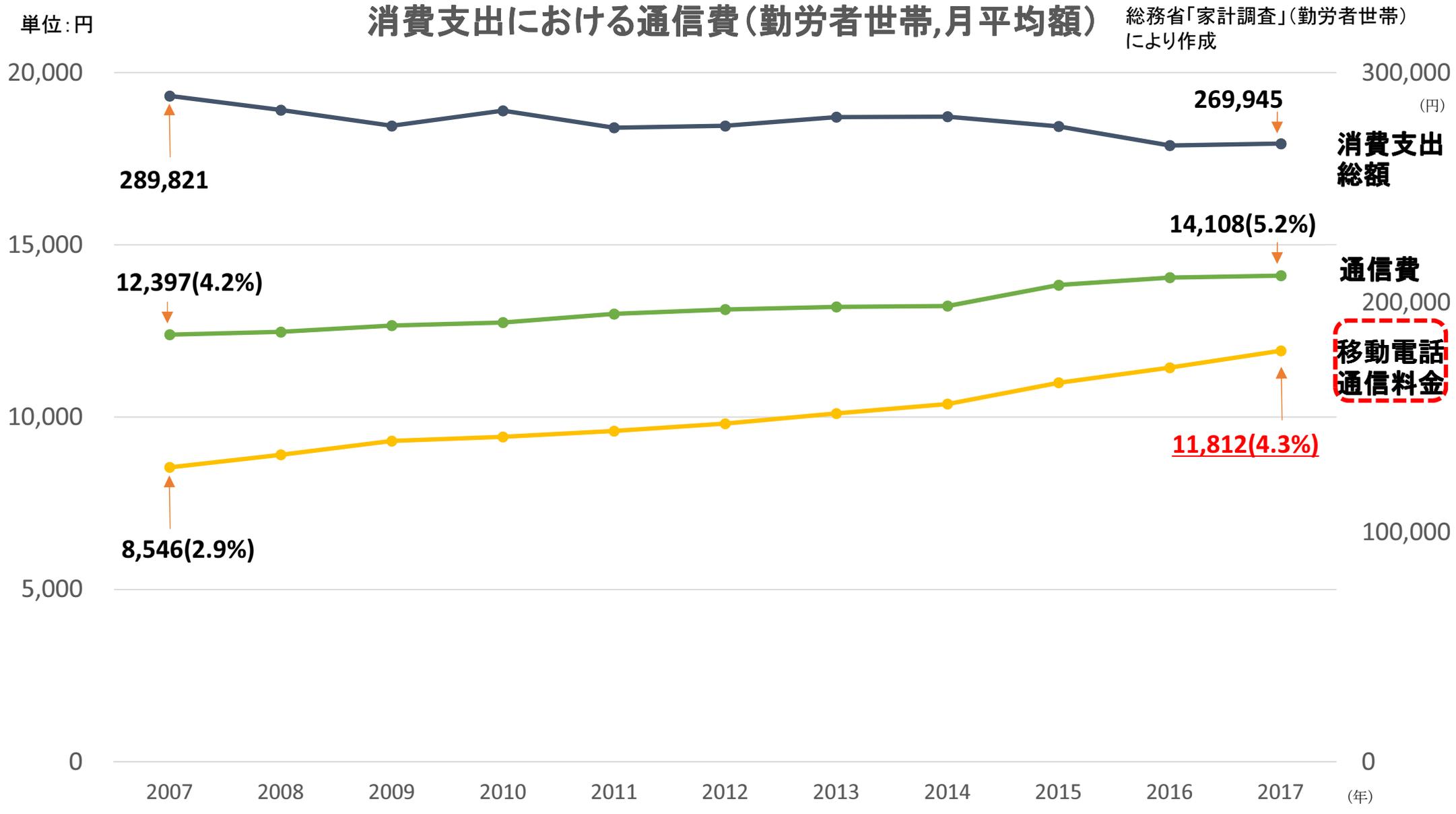
消費支出における通信費(総世帯, 月平均額)

総務省「家計調査」(総世帯)により作成



消費支出における通信費②

総務省「家計調査」(勤労者世帯)により作成



MNO各社の料金プラン一覧(NTTドコモ)

NTTドコモの通常の通信料金プラン(2年縛りあり, 1人で契約)

※下表は300円のネット接続料金を含んでいる。

	月2GB (3,500円) (1,750円/1GB)	月5GB (5,000円) (1,000円/1GB)	月20GB (6,000円) (300円/1GB)	月30GB (8,000円) (266円/1GB)
国内通話無料 (2,700円)	6,500円	8,000円	9,000円	11,000円
国内通話 5分無料 (1,700円)	5,500円	7,000円	8,000円	10,000円
通話従量料金 (980円)	選択不可	選択不可	7,280円	9,280円

MNO各社の料金プラン一覧(KDDI)

KDDIの通常の通信料金プラン(2年縛りあり, 1人で契約)

※下表は300円のネット接続料金を含んでいる。

	月1GB (2,900円)	月2GB (3,500円) (1,750円/1GB)	月3GB (4,200円) (1,400円/1GB)	月5GB (5,000円) (1,000円/1GB)	月7GB (5,700円) (814円/1GB)	月20GB (6,000円) (300円/1GB)	月30GB (8,000円) (266円/1GB)
国内通話 無料 (2,700円)	選択不可	6,500円	7,200円	8,000円	選択不可	9,000円	11,000円
国内通話 5分無料 (1,700円)	4,900円	選択不可	6,200円	7,000円	選択不可	8,000円	10,000円
通話従量 料金 (934円)	選択不可	選択不可	選択不可	選択不可	6,934円	選択不可	選択不可

KDDIのピタットプラン・フラットプラン(端末購入補助なし)(2年縛りあり, 1人で契約)

	ピタットプラン					フラットプラン	
	~月1GB	~月2GB	~月3GB	~月5GB	月5GB~20GB	月20GB (6,000円) (300円/1GB)	月30GB (8,000円) (266円/1GB)
国内通話 無料	4,480円	5,480円	6,480円	7,480円	8,480円	7,500円	9,500円
国内通話 5分無料	3,480円	4,480円	5,480円	6,480円	7,480円	6,500円	8,500円
通話従量 料金	2,980円	3,980円	4,980円	5,980円	6,980円	6,000円	8,000円

※ピタットプラン・フラットプランは1年間のみ上記料金から1,000円割引となるキャンペーンを行っている(4月13日現在)。 4

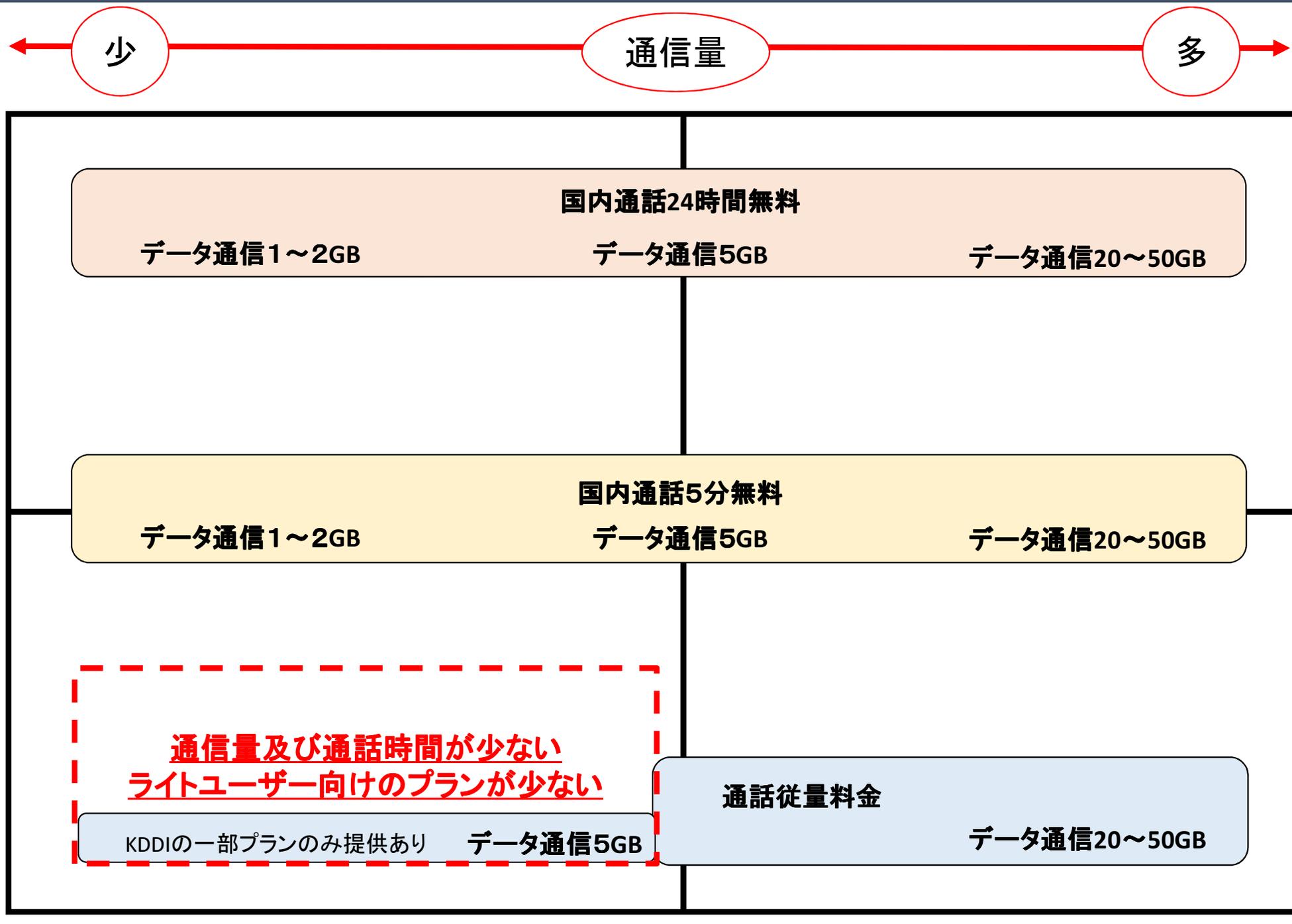
MNO各社の料金プラン一覧(ソフトバンク)

ソフトバンクの通常の通信料金プラン(2年縛りあり, 1人で契約)

※下表は300円のネット接続料金を含んでいる。

	月1GB (2,900円)	月2GB (3,500円) (1,750円/1GB)	月5GB (5,000円) (1,000円/1GB)	月7GB (5,700円) (814円/1GB)	月20GB (6,000円) (300円/1GB)	月50GB (7,000円) (140円/1GB)
国内通話 無料 (2,700円)	5,900円	6,500円	8,000円	選択不可	9,000円	10,000円
国内通話 5分無料 (1,700円)	4,900円	選択不可	7,000円	選択不可	8,000円	9,000円
通話従量 料金 (934円)	選択不可	選択不可	選択不可	6,934円	選択不可	選択不可

通話量および通信量から見たMNOによる提供プラン



現在MNO各社で提供されている端末購入補助をなくして通常のプランから値下げしたプラン

	NTTドコモ	KDDI	ソフトバンク
プランの名称	docomo with	ピタットプラン／ フラットプラン	スマホデビュー割
プランの料金	通信料金から永続して毎月1,500円の割引	通常のプランに比べ、通信料金が毎月1,000円前後が安くなる。	通信料金から永続して毎月2,420円の割引
条件	<ul style="list-style-type: none"> ・対象端末が5種類(いずれも廉価なモデル)しかなく、ハイエンド端末は選択できない。 ・端末の購入が条件。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年7月14日以降に端末を購入している場合、端末を購入せずにピタットプラン／フラットプランとその他プランの間でのプラン変更はできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機種変更, MNP (フィーチャーフォンからスマートフォンに変更する場合のみ) ・新規契約 (利用者が6歳～18歳の場合のみ)

端末と通信をセットで購入する場合と分離して購入する場合の料金差

例MNOで国内通話5分無料・月5GBの契約(2年縛りあり)を行い、iPhone8を使用する場合の2年間の支払総額

端末と通信をセットで購入・契約する場合

基本料金(通話料金) 国内通話5分無料
1,700円×24ヶ月=40,800円

+

パケットパック(データ通信量) 月5GB
5,000円×24ヶ月=120,000円

+

インターネット接続サービス
300円×24ヶ月=7,200円

+

端末代金
88,776円~94,320円

-

端末購入割引(2年間の合計の割引額)
57,672円~67,440円

=

合計 194,880円~199,104円

端末を別途購入し通信のみを契約する場合

基本料金(通話料金) 国内通話5分無料
1,700円×24ヶ月=40,800円

+

パケットパック(データ通信量) 月5GB
5,000円×24ヶ月=120,000円

+

インターネット接続サービス
300円×24ヶ月=7,200円

+

端末代金(SIMフリー版をアップルで購入)
85,104円

=

合計 253,104円

端末と通信をセットで購入・契約の方が54,000円~58,224円(月2,250~2,426円)安くなっている。

端末と通信をセットで購入する場合と分離して購入する場合に適用される主なプログラムの比較

端末と通信をセットで購入・契約する場合に受けられる主なプログラム

- 月々サポート(端末購入補助, 購入端末に応じた額を24ヶ月間割引)
- 端末購入サポート(端末購入補助, 購入端末に応じた額を割引, 12ヶ月間の拘束あり)
- 下取りプログラム(下取りに出し端末に対応したポイントを付与, 他社端末の場合はMNP当日に端末購入とセットでのみ対応)
- ◎機種変更応援プログラム(プログラム料金を支払うことで, 次の端末購入時にポイント還元)
- 家族まとめて割(シェアパックに加入し2台以上の端末を購入, 1台当たり最大5,184円割引)
- docomo with(対象端末を購入することで月1,500円割引, 端末購入補助なし)

通信のみを契約する場合でも受けられる主なプログラム

- ずっとドコモ割(長期契約者向け割引)

NTTドコモ

- 毎月割(端末購入補助, 購入端末に応じた額を24ヶ月間割引)
- ◎下取りプログラム(下取りに出し端末に対応したポイントを付与, 他社端末の場合はMNP当日に端末購入とセットでのみ対応)
- アップグレードプログラム(プログラム料金を支払うことで, 次の端末購入時に以降の残債を免除)
- ビッグニュースキャンペーン(ピタットプラン又はフラットプランに加入, 12ヶ月間1,000円割引, MNPの場合は端末購入とセットでなくても可)

KDDI

- ピタットプラン/フラットプラン(端末購入補助がない代わりに端末購入補助があるプランよりも月1,000円前後安い)

- 月月割(端末購入補助, 購入端末に応じた額を24ヶ月間割引)
- ◎下取りプログラム(下取りに出し端末に対応した額を割引及びポイント付与, 他社端末はMNPの翌月末まで)
- 機種変更先取りプログラム(プログラム料金を支払うことで, 次の端末購入時以降, 残債分の料金を相殺)
- ワンキューパ割(端末を購入した上でスマ放題又はスマ放題ライトを契約しデータ定額ミニ1GBを契約, 1年目は2,920円, 2年目以降は1,420円の割引)
- スマホデビュー割特別価格(スマホデビュー割適用時に特定端末を購入で, 更に購入端末ごとに追加の割引)

ソフトバンク

- 長期継続特典(長期契約者向け割引)
- みんな家族割(家族で1人1人がウルトラギガモンスター(月50GB)を契約で, 最大1人当たり2,000円割引)
- スマホデビュー割(フィーチャーフォンからスマートフォンへ変更で月2,420円割引, 端末購入補助なし)

SIMロックの制度概要とこれまでの動き

【SIMロック制度概要】

- SIMロックとは、事業者が自社のSIMカードが差し込まれた場合にのみ動作するように端末を設定すること。他社（MNO、MVNO）のSIMカードを差し込んで通信を行うためには、SIMロックの解除が必要となる。
- SIMロックされた端末をMVNOで使う場合、自社回線のMVNOはSIMロックを解除する必要がない。
※ただし、一部の端末については解除が必要である端末がある。
- 契約解除後の中古端末のSIMロック解除についてはMNO 3社は対応していない。
（KDDIは従前は対応していたが、平成29年12月から対応しなくなった。）

【これまでの動き】

平成22年6月	SIMロック解除に関するガイドライン策定（SIMロック解除は自主的取組） ・平成23年4月1日以降に新たに発売される端末のうち、対応可能なものからSIMロック解除を実施
平成26年12月	ガイドライン改正（正当な理由なく解除に応じない場合は業務改善命令） ・平成27年5月1日以降に新たに発売される端末について、原則として自らが販売した全ての端末についてSIMロック解除に応じる → 各事業者ともSIMロック解除可能となったが、解除できるまでの期間が180日程度
平成29年5月～12月	ガイドライン改正（平成29年1月） ・回線解約時にSIMロック解除の条件・手続を説明 ・割賦払いの場合、SIMロック解除できるまでの期間を100日に短縮 ・平成29年8月1日以降新たに発売される端末について、自社回線を使うMVNO向けSIMロック廃止 ※ドコモ：従来よりロックかけず ・一括払いの場合、当該支払い確認後、即時にSIMロック解除可能

期間拘束・自動更新の概要とこれまでの動き

【期間拘束・自動更新の概要】

- MNOは、ユーザーに対し、2年間の通信契約の継続利用等を条件として、月々の基本使用料を毎月1500円程度割引する料金プラン（いわゆる2年縛りプラン）を提供しており、大半のユーザーが同プランを選択している。同プランでは、ユーザーからの解約の申出がない限り、契約が自動的に更新される。
- 違約金がかからない移行期間は、定期契約満了月の翌月と翌々月（2年縛りプランの場合は、購入月の翌月を1か月目とカウントして、25か月目と26か月目）の2か月間である。

【これまでの動き】

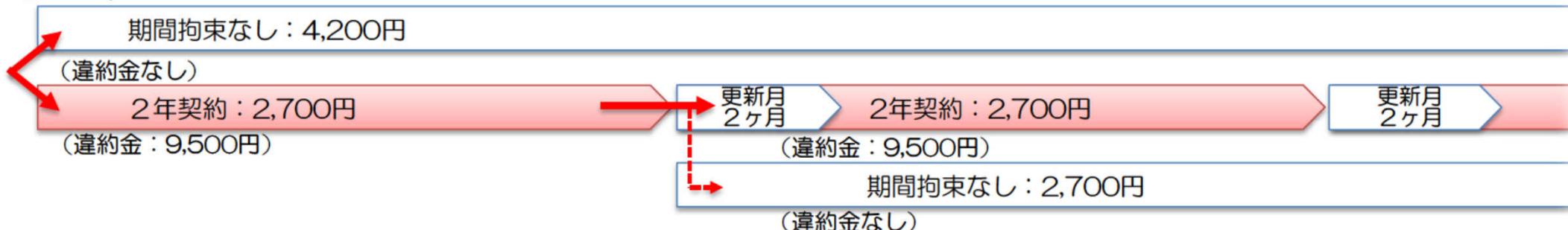
平成11年	ドコモ：いちねん割引（1年単位の継続利用を条件に、利用期間に応じて基本使用料を割引、違約金あり）により期間拘束契約開始
平成19年1月	ソフトバンク：ホワイトプラン（2年契約を条件とした安い基本料金）を提供開始
平成19年7月、8月	ドコモ、KDDI：2年契約による割引を提供開始
平成27年7月	ICTサービス安心安全研究会 利用者視点からのサービス検証タスクフォース 『「期間拘束・自動更新付契約」に係る論点とその解決に向けた方向性』公表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 期間拘束のないプランの料金水準については、実体のある選択肢となるように検討が必要 ・ 利用者の分かりやすさのみならず、公平な負担にも配慮し、加入期間に応じて違約金を段階的に逡減させることなども検討されることが望ましい ・ 「（少なくとも）初回の拘束期間が経過した後は、期間拘束が自動更新されず、違約金を支払うことなくいつでも解約できるプラン」を設けることが適当
平成28年3月～5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 更新期間の延長（1か月→2か月） ・ 更新期間前の告知必須化（プッシュ通知）
平成28年6月	ドコモ：更新後以降の違約金が不要の「フリーコース」と、長期利用者割引とポイント付与の適用対象となる「ずっとドコモ割コース」を新設 KDDI、ソフトバンク：毎月300円を2年間払い続ければ、更新後以降は違約金を不要とするプランを新設
平成29年7月～9月	KDDI、ソフトバンク：4年契約（端末を48回分割払い）プログラムを提供開始

期間拘束・自動更新の概要とこれまでの動き②

【期間拘束のないプランの概要】

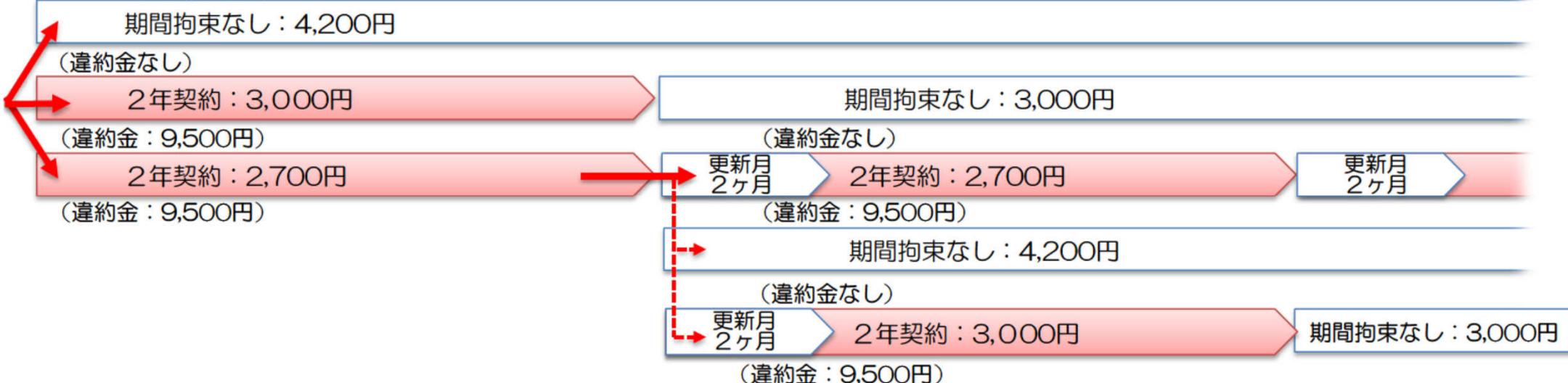
- MNO 3社は、従来から期間拘束がなく違約金のかからないプランも提供（いわゆる2年縛りプランと毎月1,500円の通信料金の差）
- ドコモは、更新以降の違約金が不要の「フリーコース」と、長期利用者割引とポイント付与の適用対象となる「ずっとドコモ割コース」を新設
- KDDI、ソフトバンクは、毎月300円を2年間払い続ければ、更新以降は違約金を不要とするプランを新設

○NTTドコモ



※ドコモは、2年契約が自動更新するプランについて、更新時に3,000ポイントを付与するとともに、利用年数に応じた割引を実施

○KDDI、ソフトバンク



※KDDIは、2年契約が自動更新するプランについて、更新時に3,000円のギフト券を付与。また、いずれのプランについても、利用年数に応じてポイントを付与。

※ソフトバンクは、期間拘束のないプランを除き、更新時に3,000ポイントを付与するとともに、利用年数に応じて割引又はポイント付与。

※国内通話かけ放題となる料金プランの場合の料金を記載。

期間拘束・自動更新の概要とこれまでの動き③

【端末の代金を最大半額免除するプログラムの概要】

- 端末の割賦期間を48か月とするもの。
- 一定期間経過後，当該端末を下取りに出すことと，同様のプログラムに加入することを条件に端末の残債を免除するもの。

【au アップグレードプログラムEX】

月額390円で

- ① 端末を48回の割賦で購入し，12か月以上同一機種を使用し，13か月目以降に機種変更を行うこと
 - ② 次の機種変更時に，当該端末を引き渡すこと
 - ③ 次の機種変更時にも，同様のプログラムに加入すること
- を条件に，翌月以降の端末の残債（最大24か月分）を免除するプログラム

【ソフトバンク 半額サポートfor iPhone】

月額の追加負担はなしで

- ① 端末を48回の割賦で購入し，24か月以上同一機種を使用し，25か月目以降に機種変更を行うこと
 - ② 次の機種変更時に，当該端末を引き渡すこと
 - ③ 次の機種変更時にも，同様のプログラムに加入すること
- を条件に，翌月以降の端末の残債を免除するプログラム

例：iPhone 8 で上記プログラムに加入し，残債免除を受ける場合のイメージ



契約解除料(違約金)にかかる判決の概要

【経緯】

○ 平成22年～平成26年にかけて、京都消費者契約ネットワークがNTTドコモ、KDDI、ソフトバンクについて、各社の行う2年縛りに伴い発生する契約解除料(違約金)が消費者契約法第9条1号及び第10条により無効であると主張し、訴訟となったもの。

【MNO3社にかかる判決の判断の概要】

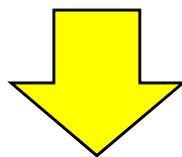
・本件解約金条項は、消費者契約法第9条1号及び第10条(事業者と消費者との間に情報の質及び量並びに交渉力の格差が存在することを踏まえ、消費者の利益を不当に侵害する条項を無効とする規定。ただし、契約の目的である物又は役務の対価については対象とならない。)の審査が及ぶ。

・「平均的な損害」を算出すると、いずれも契約解除料(違約金)である9,975円を超えておらず、法第9条1号に該当しない。

注) ここでいう「平均的な損害」の算出方法としては、①契約時から中途解約時までの割引額を「平均的な損害」として算出するもの、②中途解約時から契約満了期間までの逸失利益を「平均的な損害」として算出するものの2つのケースがある。

・2年経過後の契約更新は「再契約」であり、損害の程度は変わらない。

・電気通信事業に寡占状態があり、事業者間の競争が阻害されていることによって、結果的に消費者が経済的な損失を被っているとすれば、それは、別途、競争政策ないし立法政策において解決される事柄。



契約解除料(違約金)の水準について、9,975円は「平均的な損害」を超えるものではないとされたものの、それが、消費者の中途解約までの期間やコストを踏まえ、経済合理的に妥当な水準とはされていない。

HLR/HSSの開放について

【HLR/HSSの開放の概要】

- HLR/HSSとは、携帯電話番号、端末の所在地、顧客の契約状況といったネットワーク制御に必要な情報を管理するデータベースである。
- MNOが保有・管理するHLR/HSSが開放され、MVNOが自ら機器を調達・保有・管理するHLR/HSSとMNOのネットワークが連携できるようになるとMVNOが独自にSIMカードを発行することが可能となり、MVNO独自サービス提供の自由度が高まる。
- MNOに開放義務は課されていないが、ガイドライン上「開放を促進すべき機能」と位置付けられている。

【現在の連携状況】

平成29年10月	ソラコムがHLR/HSSを活用したIoT向け通信サービスの提供を開始
平成30年2月	さくらインターネットがHLR/HSSを活用したIoT向け通信サービスの提供を開始
平成30年3月	IIJがHLR/HSSを活用したデータ通信サービスの提供を開始

【開放のメリット】

- ・ MVNOが独自のSIMカードを発行することが可能になる。
- ・ MVNOが独自SIMで国内外の複数のMNOに対応することが可能になる。
- ・ MVNOによるIoT対応など多様なサービスの提供が可能になる。

【開放のデメリット】

- ・ MVNO自らがHLR/HSSの機器を調達・保有・管理することや、MNOがネットワーク改造やセキュリティ対策を行うことに多大なコストがかかる。

割賦契約の総額の固定について

【割賦契約の総額の固定について】

- MN0は、自らが提供する割賦契約において、総額を機種ごとに一つの金額に固定していた。
- 販売代理店は自ら設定した販売価格に応じて、MN0の提供する割賦契約の総額を変動させたり、ユーザーから代金の一部の支払いを受けて割賦契約の総額を減らすことができず、機種ごとに固定された割賦契約の総額以外の価格で端末を販売することが困難であった。

【割賦契約の総額固定の例】

(固定された割賦契約の総額が6万円の機種の場合)

○販売代理店ができたこと

購入時の負担0円

毎月2,500円×24回 (割賦総額60,000円)

購入時の負担0円

販売代理店のキャッシュバック15,000円

毎月2,500円×24回 (割賦総額60,000円)

購入時の負担45,000円 (一括で購入)

販売代理店独自値引き15,000円

○販売代理店ができなかったこと

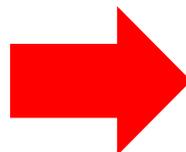
購入時の負担15,000円

毎月1,875円×24回 (割賦総額 45,000円)

購入時の負担0円

販売代理店独自値引き15,000円

毎月1,875円×24回 (割賦総額45,000円)



報告書
公表後

○販売代理店ができること

購入時の負担0円

毎月2,500円×24回 (割賦総額60,000円)

購入時の負担0円

販売代理店のキャッシュバック15,000円

毎月2,500円×24回 (割賦総額60,000円)

購入時の負担45,000円 (一括で購入)

販売代理店独自値引き15,000円

○販売代理店ができるようになったこと

購入時の負担15,000円

毎月1,875円×24回 (割賦総額45,000円)

購入時の負担0円

販売代理店独自値引き15,000円

毎月1,875円×24回 (割賦総額45,000円)

【報告書公表後の各MN0の対応状況】

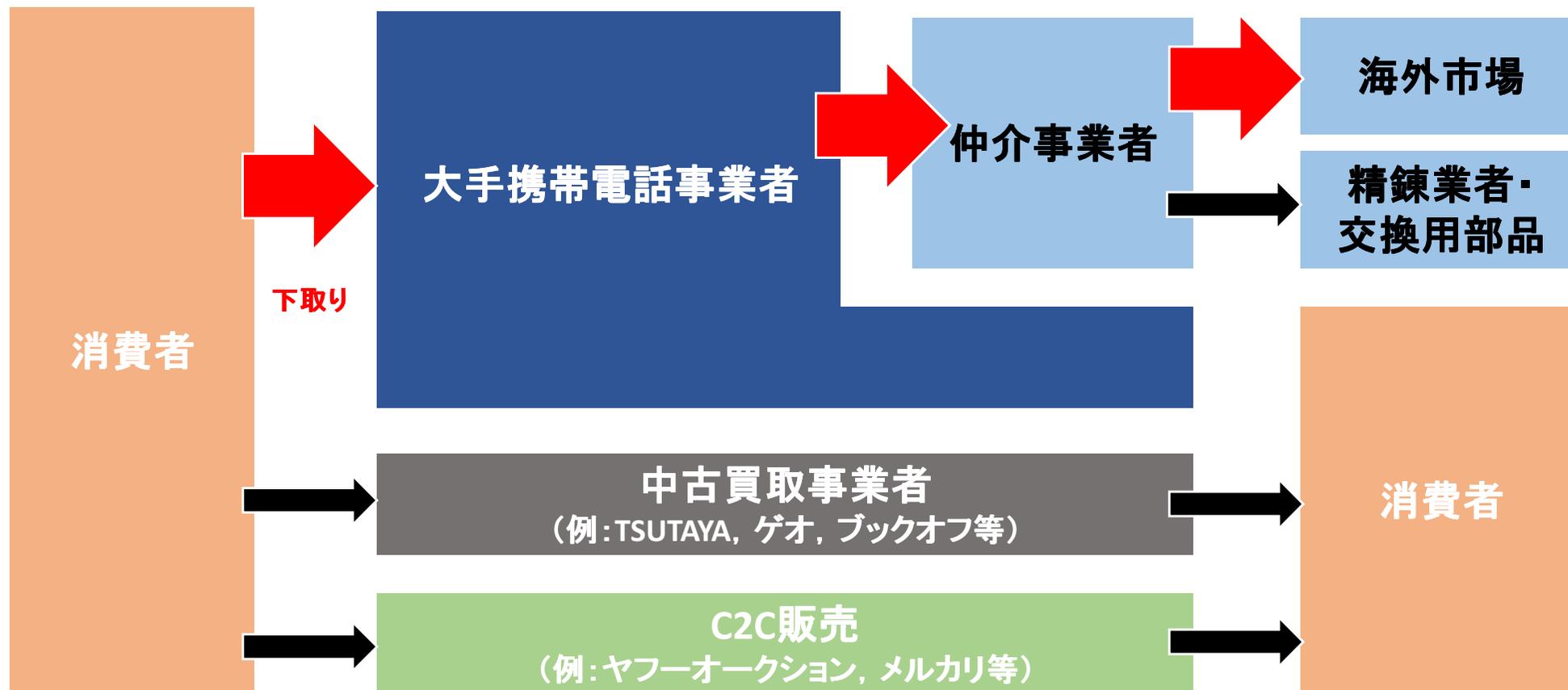
○ドコモ：販売代理店は自らの判断で1円単位で総額を変動させることが可能

○KDDI, ソフトバンク：販売代理店は自らの判断で5,000円単位で総額を変動させることが可能

中古端末について

【下取りされた端末の流れ】

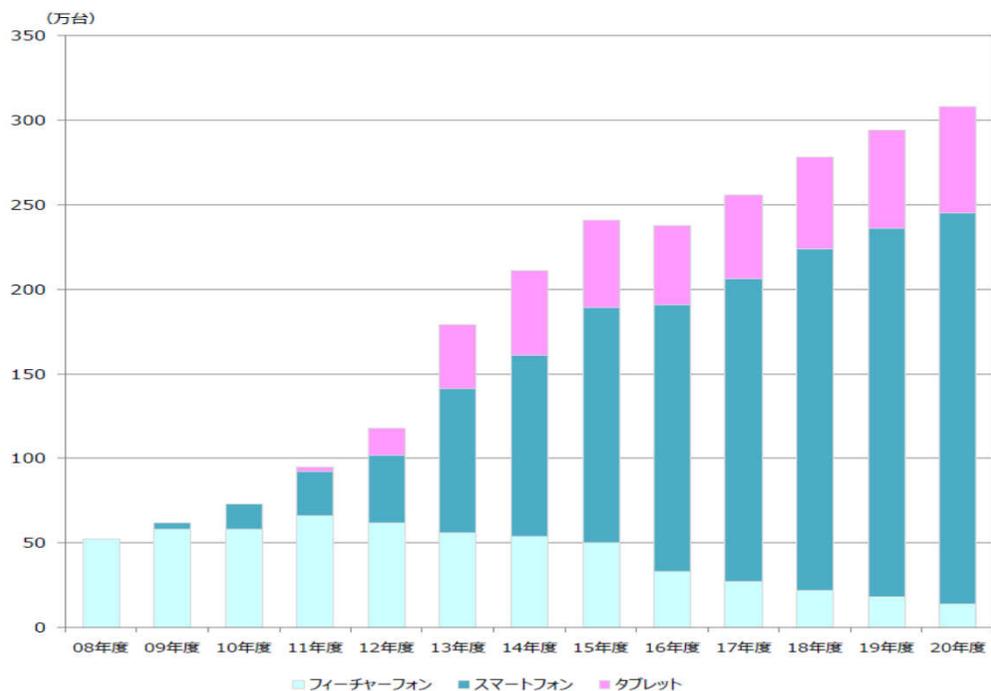
- 消費者からMNOに下取りされた端末は仲介事業者を通じて海外市場に転売されているとされる。
- 国内だけでなく海外市場からも中古端末を調達している中古端末事業者やMVNOも存在する。



(出所) 総務省モバイル市場の公正競争促進に関する検討会 第1回会合事務局説明資料を基に作成

中古端末について②

【中古端末販売台数市場規模・予測】



※MM総研による推計値

(出所) MM総研 「中古端末販売台数市場規模・予測のデータ」

【消費者の中古端末に対するニーズ】

Q 携帯機種を買い換えるとして、購入の候補になるものを教えてください。(複数回答可)

	MNO利用者	MVNO利用者
最新型の新品の携帯機種(MNO仕様)	54.0%	20.8%
型落ちの新品の携帯機種(MNO仕様)	33.0%	22.3%
最新型の新品の携帯機種(SIMフリー又はMVNO仕様)	25.4%	49.6%
型落ちの新品の携帯機種(SIMフリー又はMVNO仕様)	18.2%	49.8%
中古の携帯機種(MNO仕様)	2.4%	4.9%
中古の携帯機種(SIMフリー又はMVNO仕様)	2.4%	7.9%
その他	1.8%	0.5%

(出所) 公正取引委員会が実施したアンケート結果(抜粋)より

【中古端末事業者の意見概要】

- 中古端末が仕入れられるかどうか怖さがあることから、SIMと中古端末をセットで販売できない。
- 端末と通信が分離できないことがネックとなっている。分離が進めば、ユーザーの目に端末代金が高額に映ると想定され、中古端末が魅力的になるはず。
- 現状ではニーズは高くないが、今後、MVNOを選択するユーザーが増加すれば、MVNOは端末の割引等を行っていないので、中古端末を選択するユーザーも増加するだろう。
- MNOで行われている将来的なiPhone 8の下取りを含めた割引により、ユーザーが自由に処分できるiPhone端末が減少し、中古端末市場へのiPhoneの流通が厳しくなることが予測される。
- (海外マーケットで中古端末を仕入れることについて) 最近のiPhoneのSIMフリー版では問題ないかもしれないが、Android端末は海外で流通しているSIMフリー版には技適表示がないため仕入は難しい。
- 中古端末について契約者本人以外がSIMロック解除できなくなったことが大きな問題として残っている。
- 中古端末事業者の買取価格が、MNOの下取り価格よりも数千円高い程度の差では、大半の消費者が下取りを選択する。